

西東京市立中原小学校建替協議会

平成27年度 活動内容

西東京市立中原小学校建替協議会は、学識経験者、児童の保護者、地域の関係者、学校長等により構成され、平成24年度・25年度に西東京市立中原小学校及び西東京市立ひばりが丘中学校建替準備検討協議会において協議した事項も踏まえ、平成27年度に中原小学校の建替えについて検討を行ってきた。

本資料は、建替校の将来像をメインテーマとして検討を進めてきた本協議会の平成27年度の活動内容について、要点をまとめたものである。

目次

1	建替校の将来像についての検討	1
(1)	西東京市の学校建設等に係る基本的な考え方	1
(2)	ワークショップ等の実施結果	2
(3)	学校視察	9
2	検討経過（平成27年度）	12

1 建替校の将来像についての検討

(1) 西東京市の学校建設等に係る基本的な考え方

建替えについての基本的な考え方は、平成 26 年度からスタートした『西東京市第二次基本構想・基本計画』及び『西東京市教育計画（平成 26 年度～平成 30 年度）』に基づき策定された『西東京市立学校施設建替・長寿命化及び大規模改造等事業計画（平成 26～28 年度）』に示されており、中原小学校の建替えについての検討の前提条件や現況は以下のとおりである。

1 学校の規模	<p>本市においては、今後、多くの学校施設が更新時期を迎えることとなる。</p> <p>平成 15 年度にけやき小学校、平成 19 年度に青嵐中学校の建替えを実施したが、これは旧田無市及び旧保谷市の合併に伴う合併特例債等を有効活用しながら建設した学校施設であり、現在の本市の財政状況を鑑みれば、これらの学校を基準とする施設更新は難しいものと考えている。</p> <p>したがって、今後の学校施設の建替えを検討するに当たっては、当該校を取り巻く環境やその地域の実情を勘案しつつ、教育施設としての機能を過不足なく適切に機能を発揮できる、費用対効果に最大限配慮した適正な規模の学校整備を原則として、検討する。</p> <p>平成 26 年度から検討を進めている、ひばりが丘中学校の建替えに伴う（仮称）第 10 中学校の建設については、この原則に則り検討を進めており、中原小学校の建替えについても、同様に進めていくものである。</p>
2 その他	<p>○中原小学校の建替期間は、新しい西東京市教育計画や新学習指導要領が実施され、新たな教育が展開されていく時期である。これらの情報を踏まえつつ、検討を進めていく必要がある。</p> <p>○特別支援教育について、新しい中原小学校においても、多様で柔軟な教育環境を整備していく。</p> <p>○中原小学校の教職員において、今年度は、「中原小学校の良さを明確にする」というテーマを設けて検討している。教職員が変わっても、学校の文化として継続したいものを明文化しているところである。良さを明確にする今年度、未来について考える来年度としていきたい。</p>

(2) ワークショップ等の実施結果

これらの条件等を踏まえ、本協議会では、「中原小学校の良いところ、残したいところ、改善したいところ」というテーマに基づき、建替校の将来像の検討をワークショップ形式で行うとともに、「建替コンセプトを考えてみよう！」というテーマに基づき、建替えに当たってのコンセプトの検討等を行った。

ワークショップの中で出た御意見や、委員全員が自由に意見を述べ、意識を共有することを目的に用いたワークシートの御意見について、主な内容は次のとおりである。

テーマ：「中原小学校の良いところ、残したいところ、改善したいところ」

<校舎等建物・設備について～こんな学校が良いな～>

- 自然と体力が身につく遊具・伸び伸び出来る緑の空間などが充実した学校を作っていきたいと思いました。
- 遊具をたくさん設置してほしい。
- 温かみのある学校になるといいなと思います。学校に行くのが楽しくなるようなデザインになってほしいです。
- 環境に配慮した校舎作り、デザイン性の高い芸術的校舎。
- 大人も子どもも学べる場として学校を考え、将来的には、また子どもの数が減少すると思うので、昼間も大人たちが学習の場として空いたスペースを使えるようあらかじめ、教室棟の配置に工夫をしておく。
- 校舎・校庭などの有効利用：(1) 放課後・休日・長期休暇の在校生への利用、(2) 地域への開放
- 放課後の子どもたちの居場所としても学校が使えると有難い。(学童や中高生も含めた勉強のスペース。)
- 屋上を有効に利用できるようにしてほしい。
- 屋上で 50m走の測定が出来るようになっていたという学校には、とても魅力を感じました。
- 飼育小屋をどうするかは、ぜひ子どもたちにも意見を聞いてあげてほしいです。命を育てることの大切さを考えるいい機会になると思います。個人的には飼育小屋も立派に建て替わるといいなと思います。
- 同じ土地に学校が建つので、そのままの形で何か残して欲しい(校門の表札・池の前の大きな木など)。卒業し、新しい校舎を訪れた時になつかしい物があると嬉しいのではと思いました。
- 小学校は大人になってもなぜか心に残るようである。その一つに校舎の思い出が圧倒的に多い。大人になっても小学校の校舎を自慢する話を聞く。個性ある教育は個性ある校舎、白色の長方形的な箱型の校舎でなく少なくとも玄関や通用門は個性的でありたい。

- さまざまな動線に配慮した構造にしてほしい。
- 雨水利用をした方がよい。
- 校舎では、残したい所はほとんどなく、改善点の方がたくさんあると思いました。

<教育の面から>

- 国際化、個に応じた教育、課題解決型教育などこれからは正規の教員だけでなく課題に応じた指導者が多く出入りする。したがって、現在の職員室の大きさ以上のゆとりのあるスペースを設計の段階から重視しておく。
- これからの教育は座学型ではなく、どの強化もコミュニケーションを取り入れた動的な教育が主流となることは確実、教室も廊下もゆとりのあるスペースを設計の段階から考慮しておく。
- これからの教育を考えた環境作り：(1) どのような教育カリキュラムを考えるか、(2) 教育カリキュラムに対応した教育環境
- ビオトープ等教育施設。
- 屋上緑化、アルプス山のような子どもの遊びの幅が広がる遊具や体力向上の為の遊具の設置、つくし学級との交流で自分を大切に、他人もそれ以上に大切にできる心の教育も中原小に大切と思っている。
- 図書館とPC教室を隣接させるようにしてほしい(問題解決的な学習)。
- 全教員が効果的に使いこなせるような施設・設備にしてほしい。

<地域との関係>

- 学校と地域の連携・協働が今以上に必要になると考える。
- 地域に開放することを前提としてほしい。
- 図書室も地域に開かれていると年配の方々には、有難いのではないだろうか。
- UR 周辺は緑が多い。これとマッチするような環境づくりがこの学校の特色となることが考えられる。

<災害時への備え>

- 地震などの対応や地域との連携なども課題である。
- 災害用の備蓄食品をしまえるような場所を作ってほしいです。
- スペースは限られますが、地域の防災拠点でもあるので、収納スペースをたくさん作ったり、校庭に公園によくある災害時にかまどやトイレになるベンチをおいたりできるといいなと思います。
- 防災拠点としての設備：災害時の防災拠点としての機能を備えた設備
- 貯水できるような場所があるとよい(防災面等から)。

<建替えに当たっての全般的な考え方>

- 建替えにあたってのコンセプトを明確にしていく話し合いの継続が必要だと感じました。
Key Word を出し、そこから連想すること、漢字一文字で表現していくことなども行えたらと考えます。
- 新しい校舎は少なくとも50年間は建替えなしと言われています。これからの将来は激変流動の社会である。6・3・3制も変わるかもしれない。したがって、基礎の部分は50年以上耐えられる構造とし、その他の部分はその時代の教育の課題に対応できるような柔軟な造りとする。
- 建替え後、50年経っても地域に愛され、地域の核として機能する学校であってほしい。その為には、自分の家の子どもが在学していなくても学校を利用し、学校を皆の物として大切にしたいとなるような仕組みが必要と思われる。その結果として繋がりのある災害や防犯に強く温かな街づくりができると思う。
- 人里離れた山の中の小学校が、色々な施設を兼ねているようなそんな学校こそが、これからの時代、人を本当の意味で育むには大切になってくるのではないのでしょうか。

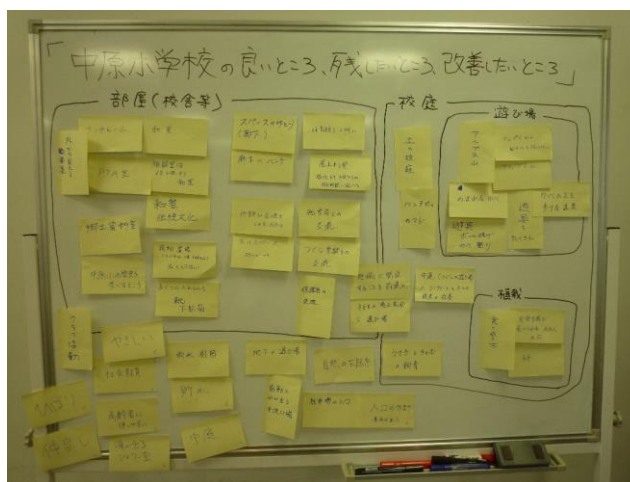
<その他>

- 中原小周辺はマンション建設がすすみ、今後児童数も増えると思うので、新校舎の敷地内に学童クラブを作って欲しい。保護者からの意見が多数。
- 障がい者に対して普通に接することができる優しい子供たちになっていってほしい。つくしさんとの交流はとても大切なことだと思います。
- 中原小学校は優しい、仲良し等というイメージがある。



←第2回会議ワークショップの様子

出た意見を付箋に書き
ホワイトボードにまとめました→



テーマ：「建替コンセプトを考えてみよう！」

<検討経過>

検討に当たっては、まず、西東京市立小・中学校の学校案内や市が作成した教育計画等を参考にし、ふせんに意見、キーワード等を出してホワイトボードにまとめる等して意見交換を行った。

次に、出された意見等をテーマ毎にグルーピングし、そのタイトルを漢字1文字等で表現した。

そして、それを踏まえて、1「学びの場」、2「生活の場」、3「地域との関わり」という3つの観点を設定し、意見等の集約を行った。集約の中で、漢字を組合せ、造語の短文にして示した方が分かりやすいという意見が出て、最終的な形となった。

観点	まとめ（キーワード等）
まとめ（キーワード等）に関する意見等	
1 学びの場	凜として拓く
<ul style="list-style-type: none"> ・時代によって変化している新しい多様な学び（学習）の力に柔軟に対応して、環境を整えてほしいと思う。 ・人間関係形成力、コミュニケーションスキルを学んでほしい。 ・多様な学び（学習）に適応して、拓いていくようになってほしい。 ・どこでも展示できるようなスペースがあると良い。 	
2 生活の場	柔に交わる、楽しく快く、優しく暖かく
<ul style="list-style-type: none"> ・地域からのイメージとして、中原小学校の児童は、つくし学級の子たちとの交流によって優しいという印象がある。柔軟に受け入れることができる。 ・通う子どもたちを気持ちよく迎え入れられるような学校であってほしい。 ・児童それぞれにお気に入りの場所があるような学校が良い。 ・安定した採光が取れ、まぶしくない教室にする。 ・温かみのある雰囲気（暖色、木調等）、落ち着いた優しい雰囲気（丸みを多用）が欲しい。 ・階ごとに色分けする工夫をするのも良い。 ・心地よく使えるトイレになってほしい。 ・校内で体力作りができるような仕掛けが欲しい。 ・規模の問題もあるが、大階段をステージにできると良い。 ・ワンフロアで調理と食べることができるような構造、ランチルームが欲しい。 	

観点	まとめ（キーワード等）
まとめ（キーワード等）に関する意見等	
3 地域との関わり	輪をもって翔ぶ
<ul style="list-style-type: none"> ・地域とのつながり、人の輪のつながりを大切にする。 ・学校が子どもと地域を結びつけられるようにする。 ・地域の象徴、シンボルとなる学校となってほしい。 ・鳥の“ひばり”のように学校から巣立って、飛び出していくイメージ。 ・まちづくりの拠点、地域に開かれた学校であってほしい。 ・地域の人が外から見た時に、行きたくなる学校であると良い。 ・卒業生が誇れるような学校にしてほしい。 	

<その他御意見等>

- ・多様性という考え方は、3つの観点に共通して関わるものである。
- ・色々な子、色々な学び、色々な環境、それぞれに多様性があり、それらを踏まえた学校づくりをしていく必要がある。
- ・学校には、それぞれ教育目標や学級経営方針がある。それを踏まえた学校づくりも大切である。
- ・学校のシンボルをどのように形にして考えていくかという点について、検討の余地がある。これまでの中で、アルプス山等いくつか候補がでてきているのではないか。
- ・耐震等の安全面や緑化等の環境面での配慮もしなければならない。

<参考> 西東京市立中原小学校建替協議会 建替コンセプト検討過程 (写真)



※次ページに上記の写真の趣旨を踏まえてまとめたものを掲載しています。

<参考> 西東京市立中原小学校建替協議会 建替コンセプト検討過程 (図)

凛

- 学びを拓く
- 展示スペース
- 多様な学び
- どこでも展示

楽、好、友

- お気に入りの場所がある学校
- 子どもたちの発表の場
- 大階段をステージに
- ランチルーム
- 校内で体力づくり
- まぶしくない教室
- 明るい

絆、和

- 地域の人が行きたくなる学校
- 地域の人々の居場所
- 地域に開かれた学校
- まちづくりの拠点
- 地域開放の図書室

地域との関わり

優、暖

- 温かみ
- カーブ、丸みのあるコーナー
- 暖色、木調
- 階ごとに色分け
- 色分け (トイレ、男女)

色

清

心地よい
トイレ

柔

やわらかい

楽

緑、共、協

環境、エコ

- 門の近くに桜が欲しい
- 色々な植物
- アルプス山の桜
- きんもくせい
- 屋上緑化
- みかんの木
- びわ

快

子どもたちを
気持ちよく迎
え入れる

家

調理台とテー
ブルを備えた
家庭科室

安、耐

耐震安全

※ 御意見の趣旨を踏まえ、抜粋してまとめています。

…御意見

…タイトル漢字

(3) 学校視察

協議会では、練馬区立谷原小学校の視察を実施した。

練馬区立谷原小学校は、昭和 32 年に建設され、平成 27 年 8 月に老朽化等に伴う建替え等を終えた学校である。

練馬区立谷原小学校 施設概要	
所 在	練馬区谷原 2 丁目 9 番 26 号
面 積	敷地面積：13,958.47 m ² 延べ面積：8,919 m ²
構 造	鉄筋コンクリート造 3 階建 一部鉄骨造
工 期	平成 23 年 6 月から 平成 27 年 8 月まで



この学校の普通教室、特別支援学級棟、図工室、家庭科室、パソコン室、図書室、体育館、屋上、プール等を視察した上で、練馬区教育委員会との意見交換も実施した。

学校視察に関する御意見等は以下のとおりである。

<建物全般>

- 光を多く取り入れ、明るく開放的な校舎が魅力的でした。また、木材を多く使い、温かみのある建物にしているのを感じました。
- 全体的に校舎内が広く明るい。白色を基調としているのが良い。
- 電気を付けなくても明るいのがとても良かった。
- ガラス張りの校舎で全体的に明るくて良かったです。
- 全体的に開放的で明るく学びやすい。
- 入った時の開放感をとても感じました。収納スペースなどもたくさんあり、ゴチャゴチャ感が感じなくて良かったです。
- 使用してみても短所ということで、太陽光はまぶしいという話があったが、明るさと直接光をどうするか等といったまぶしさとの兼ね合いが重要。
- 新しい建物だけに、今の中原とは別物である。吹き抜けが素晴らしい。
- かべがガラスを使っている所が多く、広さを感じたが、収納の面で困ることもあるのかと思った。
- 学校生活における置き場や倉庫は、少ないように感じた。
- 児童の作品を展示するスペースをどのように考えるか…より工夫が必要では。
- 公開も行い、地域に開かれた学校と思いました。
- 避難場所としての機能はいかがか。

<教室・廊下等>

- 教室の横幅が良い。
- もし人数が増えて、一クラス 40 人となった場合、この教室の広さでは狭いのではないかと思います。
- 教室の天井が低いとのことだったが、全く気にならなかったし、逆に照明が近いせいか明るく感じた。
- 天井の高さはもう少し欲しい。
- 廊下が広く、多樣的に使用できる。
- 廊下に荷物かけのフックが無い点が気に入った。
- 階段の幅がやや狭い。
- 階段の 1 段 1 段の高さも子供に優しい高さと思った。
- 子どもたちが授業以外で使えるスペース・教室がたくさんあっていいなあと思いました。

<特別教室・体育館・プール等>

- 家庭科室にかなりの工夫がなされている。
- 家庭科室のコンロは地域生涯学習にも使いたいので、キッチンスタジオのように皆で見ながら使えるような形が望まれる。
- 図工室、理科室のイスが木製のもので良かった。
- 体育館の様子が外から見えるのが良い。舞台の奥行きが欲しい。
- プールの更衣室が気に入りました。

<その他施設・設備>

- 特別支援学級棟が広く充実しているのが素晴らしい。
- 特別支援学級の方々にとっては、シャワールームは必須だと思います。
- 屋上緑化は、先生のお話では「屋上子どもたちには全く使えないため意味がない」ということだったので、やり方も考えなければいけないのかなあと思いました。
- 屋上は緑化の為だけでなく、子供も活動できるとなお良い。
- 屋上緑化（エコスクール）は、環境学習の為ならば子どもたちで何かできるのではないかな。少しもったいないです。
- 各階のトイレの数が多い。
- トイレのタイルについて、男の子が青、女の子がピンクとなっているのが良い。
- 図書室の開放が良い。
- 保健室が広く、先進的である。
- 下駄箱が使用しやすい。
- 和室もあると良いと思った。
- 畳の部屋が広く落ち着けそうです。

○配膳室が気に入りました。

<今後に向けて>

○実際に施設を見ることによって、イメージを持つことができた。

○新しい校舎を作る上でのコンセプトを明確にしていかなければならない。

○子どもの学びの多様性に応えるための教育環境について、是非考えていきたい。

○中原小も明るく子供が喜んで通いたくなる校舎にしたいと思いました。



※第3回会議学校視察（練馬区立谷原小学校）の様子

2 検討経過（平成 27 年度）

会議	年月日	主な検討内容
第 1 回	平成 27 年 10 月 26 日	<ul style="list-style-type: none">・ 委員依頼・ 検討状況等について・ 今後の予定
第 2 回	平成 27 年 12 月 17 日	<ul style="list-style-type: none">・ 建替校の将来像について（西東京市の学校建設等に係る基本的考え方）
第 3 回	平成 28 年 1 月 19 日	<ul style="list-style-type: none">・ 建替校の将来像について（学校視察）
第 4 回	平成 28 年 1 月 29 日	<ul style="list-style-type: none">・ 建替校の将来像について
第 5 回	平成 28 年 2 月 19 日	<ul style="list-style-type: none">・ 建替校の将来像について